

# 日本人学生と留学生の協働意識を高める授業の成果と課題 —情報基礎演習 介護福祉コース実践報告—

## Outcomes and Issues of Lessons that Enhance Collaborative Awareness between Japanese Students and International Students —Practical Report on Computer Exercise in Care Welfare Course—

川 喜 田 多 佳 子  
Takako Kawakita  
寺 家 尚 美  
Naomi Jike

### ( 要 約 )

多国籍にわたる留学生と日本人学生が混在する情報基礎演習介護コース授業は、日本語能力に差がある中で、両者のパソコンスキル向上をいかに図れるかが重要である。日本人が留学生をサポートしながら行うグループ学習を通じて、卒業後の介護現場で日本人と外国人がうまく働けるような協同意識を養う授業を実践した。日本語能力が低い留学生に対しては、関わりの中から興味対象を探り、果物など大きな反応を示す題材を使用した課題を実施した。授業ではタイマーを使用し作成終了時間を設定することで、取り組み姿勢や集中力の向上を図った。また、プレゼンや日本人と留学生の少人数グループでの課題作成では、お互いを理解し合うことや役割分担を行い1つの作品を作り上げることができ、この授業の狙いである協働意識を高める効果が確認できた。

### (キーワード)

外国人留学生 情報リテラシー 協働意識

## 1. はじめに

2016年、外国人が継続的に就労できるように在留資格に「介護」を設ける入管法改正が行われた。介護福祉士の資格を有する外国人が介護施設等との契約に基づいて介護（又は介護の指導）の業務に従事するための在留資格が新たに創設されたというものである。在留資格「介護」の対象者は、日本の介護福祉士養成施設（都道府県知事が指定する専門学校等）を卒業し、国家資格である介護福祉士の資格を取得した人となっている<sup>1</sup>。このため、介護福祉士を目指す留学生が近年急増している状況であり、2025年までに約55万人の人材確保が必要になるといわれている介護業界<sup>2</sup>において、「外国人介護福祉士」の活躍が期待されている。

こうした背景から、本学キャリア育成学科介護福祉コースにおいても、外国人留学生が増加しており、今後も増えるであろうと予想される。また、昨年度からの2年間は、留学生者数が増加しただけでなく、中国、ネパール、ベトナム、フィリピン、モンゴルと多国籍にわたる留学生が入学している。また、入学者の半数を留学生が占めているという状況である。漢字圏と非漢字圏に分類してみると、これまで中国からの留学生だけであったのが、2015年度以降は非漢字圏からの留学生が漢字圏の留学生を上回る入学者数となっている。留学生は多国籍にわたる。日本語能力が十分とは言えない者も見受けられる。日

本語レベルに差がある日本人学生と留学生が共に学ぶ授業において、パソコンに関する専門用語や操作方法を説明することは非常に困難である。両者のレベルを意識した教授法を昨年度から2年間実施してきた。そこから見えてきた結果と今後の課題について考察する。

## 2. 授業における課題

ほとんどの留学生はテキストの漢字が読めないため、テキストを使用して授業を進めることができない。また、ワープロソフトによる文書作成やプレゼンテーション用資料作成において、日本語入力に不慣れなことだけでなく日本語表現力が不足していることから、日本人学生と同じ課題を与え、同レベルの完成度を求めることは難しい。授業のレベルを留学生に合わせると、日本人学生の到達レベルを下げってしまうことになりかねない。同一授業

表1 学生からの声（聞き取り）

内で両者のスキル向上を目指すためには、日本人学生には物足りなさを感じさせず、パソコンスキル向上につながる内容にすること、留学生にはパソコンスキルだけでなく今後介護現場で必要となる日本人

日本人学生	留学生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで外国人と接することがなかったため話しかけにくかった。</li> <li>・元々初対面の人と接することが苦手。外国の人となるとより引いてしまった。</li> <li>・テンションが自分たちと違うのでどう接したらわからなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の国の言葉で話した方が楽だから。</li> <li>・元々人見知りでもある上、マイペースな性格である。</li> <li>・日本語で話すことに自信がないので恥ずかしい。</li> </ul>

との円滑なコミュニケーション能力の向上につながる内容とすることが求められる。授業が始まったばかりのころは、浅い交わりである上に言葉の問題や文化の違いから留学生と日本人学生の間に大きな隔りがある。その理由について日本人学生と留学生の数人に聞き取りを行ったところ、外国人との接し方への戸惑いについて、いくつかの意見を聞き取ることができた（表1）。授業内での様々なコンテンツ制作を通して、お互いに助け合いながら、感謝、感動、共感という福祉の心と探究心を深め合いながら、協働意識の大切さを学ばせることが重要なポイントとなる。

## 3. 実践内容

15回の授業内容は、Windows、Word、PowerPoint、Excelの基本を身につけ、配布したノートパソコン活用のスムーズな導入を目的としている（表2）。本学の共通教養科目である情報基礎演習は、学科・コースによってシラバスの内容が異なる。介護福祉コースでは、Wordでの文書やチラシ、ポスター、レポート作成とPowerPointでのスライド作成とプレゼンテーション演習を軸としている。2年間の学修を納めるためにも必要なスキルである。

留学生が多く在籍する介護福祉コースでの授業では、日本語能力の低い留学生と日本人学生が協働意識を高め、互いに成果をあげることが狙いである。

授業を円滑に進行し、留学生と日本人学生の両方に

表2 平成30年度授業内容

授業回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ノートパソコンの活用1
第3回	ノートパソコンの活用2
第4回	文字入力（Emailへの添付ファイル）
第5回	Wordの基本1
第6回	Wordの基本2
第7回	Wordのまとめ
第8回	PowerPoint1
第9回	PowerPoint2
第10回	PowerPoint3
第11回	自己紹介プレゼンテーション
第12回	Windows7の活用（フォトムービーの作成1）
第13回	Windows7の活用（フォトムービーの作成2）
第14回	Excelの基本
第15回	グループ学習（カレンダー作成）

対応するため、2名のティーチングアシスタント（TA）を配置している。留学生へのサポートは操作説明だけでなく、日本語に関するサポートやこういったところに留学生は手間取っているかを把握することも必要となる。2名体制でのサポートによって、留学生の理解度を細かく確認し、ひとり一人にきめ細かな対応をすることができた。

去年は、テキストに沿って授業を行ったが、留学生がテキストを読むことができなかったため、テキストに掲載されている作成データは使用せず、果物や短い言葉などわかりやすいものを使った演習問題を行った。テキストで使用するデータより身近に感じられたのか、反応は非常に良かった。

本年度は、留学生を意識し、漢字にルビがあるテキストを使用した。しかし、練習問題にルビがないなど日本語能力が低い学生には難しい部分が多いため、昨年反応が良かったわかりやすい内容に変更して実施した。特に果物について、留学生は非常に大きな反応を示すことがわかった。果物の種類についての議論が起こるなど、日本人との意見交換などよいコミュニケーションが生まれるきっかけとなった。果物画像の配置や色遣いなど、レイアウトをよりよくする取り組み姿勢が見られ、授業に積極性が表れた。また、全体を通して実施したことは、タイマーを使用して毎回課題の作成終了時刻を設定し、これを守らせたことである。これは、授業への集中力を高める目的と、時間内に仕上げるという社会人に必要な意識を養う目的がある。授業回数が進むにつれ留学生からは「あと何分時間をください」など具体的な意思表示もするようになり、より高い目標達成への意識が高まったものと思われる。

### 3-1 文書作成

タイピング練習を授業の始めに実施した。日本人学生のタイピング速度アップにつながることから、時間計測を行いながら全員で実施した。ローマ字入力に不慣れな留学生にとっては、スムーズな文字入力の基礎固めにも役立った。まず、日本人と留学生で同時に行った課題は、介護現場で活用できるであろう注意喚起などのポスター作りである（図1）。注意喚起ポスターは、内容はシンプルだがたくさんの図形機能を駆使して作成する必要があるため、Wordを使いこなせなければ完成できない。制作が進む中、留学生は完成例により近づけるための指導を要望する声が多く、質の高い作品を完成することができた。その結果、日本人と変わらないものを作りあげることができた。また、日本人学生にはより高度な文書作成能力が身につくような課題を追加提供し、留学生とは分けた内容を実施した。これは、介護現場にとどまらず、一般的なビジネス現場で見受けられる文書の作成に取り組みせることで、社会人の常識であるビジネス文書の書き方を理解させるためである。留学生に対しては、ビジネス文書の作成を求められることはないが、日本のビジネス文書の成り立ちを理解してもらうために、簡単な日本語でのビジネス文書作成課題を与えた。文書作成の際に、留学生の中には分節間にスペースを入れて文書入力をするものが見受けられた。これは、英語などのように文節間にスペースを入れている母国語の影響によるものであると思われる。文節間にスペースを入れたほうが理解しやすいようであるが、



図1 留学生の作品

日本ではこのようなスペースを入れずに文書作成する必要がある。文書が読め、書けるようになってもらえるような課題提示を今後も検討していく必要があると感じた。

### 3-2 プレゼンテーション

3分間の自己PR資料の作成と発表を実施した。協働意識を高めるには、話す力だけでなく聞く力を養うことが重要である。人の発表については良かった点、改善点などをメモに記入してもらい、お互いアドバイス交換を行った。日本人、留学生の区別なく自分以外の発表についてアドバイスを記入し、全員で交換を実施した。アドバイス交換を行った後、プレゼン資料を修正してもらい、次回授業で再度発表を実施した。授業時間の関係上プレゼン実施後すぐに交換を行ったため、アドバイス内容については回収していないが、二度目の発表では、聴き手を惹きつけるためのデザインや組み立て変更があったり、留学生においては日本語プレゼンテーション表現に磨きをかけアピール力に大きな成長がみられるなど、一度目の発表よりよい内容となった学生が日本人、留学生のどちらも増えた。

実施後のアンケートでは、日本人学生から留学生の母国のこと、好きなもの、思いなどがプレゼンを通して理解でき、距離が縮まったという意見が多かった。授業の中盤で、こうした発表を実施したことは、お互いの理解を深め、協働意識を高める効果があったと考える。

### 3-3 動画作成

ムービーメーカーでの動画作成では、介護福祉コースに関することをテーマとした。自分たちが体験したオープンキャンパスの様子や介護実習の様子の写真を使用したため、日本人も留学生も大差ない完成度となった。日本人学生と留学生が選んだ画像素材については異国文化での興味・個々の感覚の違いが見られた。沐浴体験等のスナップショットを多く選ぶ留学生に対し、日本人は背景を中心とした画像を選択する傾向があった。これは国民性による性格の違いも関係している可能性が高いと思われる。コース紹介動画ではどちらの要素も重要である。意見を出し合いながらよりよい作品を作り上げることに応用できるため、次年度はグループでの協働学習に変更し充実させたい。

動画作成や PowerPoint での資料作成は、介護現場でも活用していくことができるスキルであり、留学生でも取り組みやすい内容とすることで、クラス全体でスキル向上を実現していくことができた。特に留学生に関しては制作のプロセス工程の段階で講師や TA、さらには周りの学生に向けてアピールしながら取り組む姿が見られた。動画作成は、介護現場での研修会や事例発表の際にも活用できるため、その技術を習得し積極的に使用してもらいたいと考える。ただ、ムービーメーカーについては、マイクロソフトがサービス提供を終了しているため、別の動画編集方法を検討していく必要がある。

### 3-4 表計算

介護現場での Excel 使用頻度は低く、実際の介護現場からの声でも、Excel は表作成程度ができれば問題ないとの意見がある。しかし、卒業生を聞くと、介護現場でもおむつ交換の管理表などで Excel を使用しているという報告例もある。また介護現場から管理部門に配属が変わるようなことが発生した

場合、Excel の使用頻度は上がると考える。そのため授業内では、四則演算や基本グラフの作成など基礎レベルの内容を実施した。Excel に対しては、留学生だけでなく本学の学生のほとんどが苦手意識をもっている。本学オフィスワークコースでは、初学者に対しては極力専門用語を使用せず、わかりやすい表現に置き換える授業展開を行うことで、習得効果が出ていることから、その手法を取り入れた。さらに、

留学生の興味が高い果物の売上集計などを例に実施したことにより、習熟度が上がり、質の高い課題の提出がなされた。

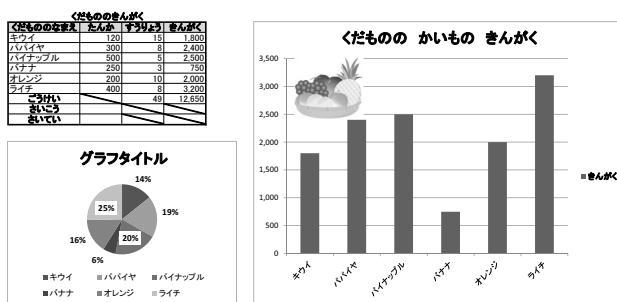


図2 留学生の作品

### 3-5 グループ学習

15回にわたる授業の最終課題として、日本人学生と留学生の混在グループによる課題として、PowerPoint を使用したカレンダー制作を実施した。PowerPoint は、プレゼンテーション資料の作成だけでなく、施設便りなどのチラシ作成等でも利便性に優れており、有用に活用できる。

日本人2名と留学生1名または2名の少人数を5グループに分け、8月から12月の5か月分を1グループにひと月ずつ割り当て、全員でひとつのカレンダーを作り上げた。お互いの理解が深まってきた時期での協働作業は非常にスムーズに



図3 留学生の作品

実施できたと考える。日本人が主導し学校行事や日本の季節行事を調べたり、留学生もその月に最適な画像をインターネットで検索して取り込んだりと、役割分担をしながら日本人と留学生による活発な取り組みを行う姿がみられた。巡回する中で見えた事として、留学生はレイアウトに関するこだわりを強く意思表示する傾向がある。それに対し少し遠慮がちな日本人が後押しされながら作業を進めていく傾向があった。制作から印刷、製本までを実施し、授業の集大成として全員に配布した。このカレンダーは授業の狙いである協働意識を高めるグループ学習の総まとめの成果物となったと考える。

## 4. 実践内容から見た効果

人数が少ない中で、TA2名体制で授業を行ったことから、一人一人に目が行き届き、学生とのコミュニケーションを密に図ることができた。留学生の日本語レベルやパソコンスキルなど、一人一人の状態を確認しながら、レベルアップを図ることができたと考える。TAの役割としては、単なる操作補助にとどまらず、日本人学生と留学生の協働学習の向上に向けた、日本語のサポートや課題づくりのアドバイスを、今後も2名体制で手厚いサポートを維持できるのが望ましい。

また、全体を通して実施したタイマー使用による終了時間を設定したことは、全員が時間内に課題を



作成することができ、当初目的としていた期限内に仕上げるという社会人に必要な意識の向上及び授業への集中力を高めることが達成できた。また、早くできた学生が作成に手間取っている学生をサポートする姿も見られ、協働意識の向上を図ることもできた。これは、留学生だけでなく日本人にも効果があったと考える。また、時間を決めて進めていくことで、日本語能力に差がある日本人と留学生の足並みを揃え、授業を進めていくことができた。

また、授業アンケートにおいて、日本人学生に対してのみ「留学生とパソコンを学んでみてどうであったか」と尋ねたところ、異文化交流に対する満足度の高いコメントが多く見られた。(表3)

表3 日本人学生からの声 (アンケート)

- 
- ・プレゼンの授業では、異国の文化を知ることができた。
  - ・ゆっくりと丁寧に説明してくれたので、分かりやすかったです。
  - ・パソコンの操作を留学生に教える機会があり、そのときに仲良くなれて良かった。異国文化も知れてよかった。
  - ・パソコンの勉強はこれから必要なことなので、いろいろ知り勉強することができてよかった。
  - ・ネパール、ベトナム、中国の人たちと勉強できてうれしいです。ネパール語、ベトナム語も教えてもらえるので最高です。
  - ・自己PRの時に、その人の家族や暮らしの写真が見られていい機会だったと思います。
- 

## 5. 今後の課題

本学介護福祉コースにおいては、専門用語や操作イメージについて、擬音語を使いながら指導するなど独自の演習を中心とした授業展開<sup>3</sup>が必要である。また、留学生の日本語能力の問題から汎用的なテキストでは対応できない状況にある。本年度採用した留学生を意識した情報リテラシーのテキストでも同様であった。このような状況から、自作テキストの作成を検討したい。

また授業全体を通して苦労したこととして、課題の提出方法も挙げられる。通常、日本人対象の授業ではデジタルデータでの提出を基本としているが、この授業では紙ベースで印刷させて回収するのが精一杯であった。パソコン活用のメリットはデジタルデータの活用である。普通の日本人学生に出来ることが留学生には出来ないことが多いため、アンケートを実施したが、留学生からは有効なデータを得ることが出来なかった。そのような現実も改善できるよう日本人と留学生との協働学習授業から解決策となる仕掛けを検討していきたい。留学生とのグループ活動は、昨年日本人学生が留学生をサポートする姿が見られたことから、今年度取り入れたものである。言葉の壁を乗り越え、協働意識が生まれるグループ学習を今後も充実していきたいと考える。

高齢者が対象となる介護福祉コースなので、昔話や童謡を扱った作成課題とし、日本を知る機会も与えたい。日本の文化を学ぶことは、その学びで得た知識が高齢者とのコミュニケーションやレクリエーションなど介護現場で役立つからである。PowerPointの作成課題を各自の興味あるテーマにすると、どうしても母国に関するものがほとんどとなる。自分の国を紹介することも大切ではあるが、こだわりが強くなりすぎる点が見受けられる。今後日本で働き続けるためには、日本のことをさらに学び、現場に出たときに有効となる知識を身につけさせたいと考えるため、日本に関する題材で作成させる工夫を探していきたいと考える。

Excelでのデータ管理やPowerPointでの事例報告など介護現場でもパソコンを活用するという日本人卒業生の声もある。日本人の学生には将来、職場のリーダーとしての活躍が望まれる。そのためには授業シラバスの到達目標に挙げている「ワープロでのレポート作成、プレゼン発表のスライド作成と資料

の準備ができる」という目標を高い水準で達成させる必要がある。多様な学生への対応に対し、きめ細やかな対応を行うためには経験豊かな TA の導入もこの目標達成を果たす上で重要な役どころである。学生の多様性を考慮しながらきめ細やかな学生との関わり方や質の高い指導方法のあり方を継続して TA と連携していく必要があると考える。

## 6. まとめ

介護人材不足や在留資格における入管法改正から今後も外国人が増えるであろう介護現場において、日本人と外国人がうまく働けるようになるために、本学介護福祉コースでは、日本人と留学生の混在クラスで、お互いが関わり合いながら学ぶという、協働意識の向上につながる質の高い授業運営をしていく必要があると考える。日本語能力が低い非漢字圏の学生が多い上、多国籍である留学生と日本人学生の協働意識を高め両者のスキルアップが図れる授業の構築を継続して検討していきたい。

15回の授業を通して見えたことの一つに年長者を敬う文化など出身国の国民性も調べた授業受け入れ体制とその実践方法の検討の必要性もある。これに対しては留学生が参加するボランティア等のイベントにも積極的に関わりながら探って行きたい。

また、卒業生の声にもある介護職におけるパソコンスキルは、事務職同様のものが必要ではないかと思われる。なぜならおむつ交換やシフト管理表等の管理はデスクワークであり、現場で生かすための集計をしたりファイリングする作業も発生するからである。介護現場であろうが一般企業であろうがデータ処理に発生する事務処理スキルは同じだと考えるからである。この授業を通して社会人の常識を学べる授業の構築をしていきたいと考える。

## 参考文献

- 1 法務省入国管理局 28年入管法改正について,[http://www.immi-moj.go.jp/hourei/h28\\_kaisei.html](http://www.immi-moj.go.jp/hourei/h28_kaisei.html)
- 2 厚生労働省(2018) 第7期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について,  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000207323.html>
- 3 川喜田多佳子 (2013) 「表計算科目の教授法について—やる気と自信を導く「講師力」—」、『高田短期大学紀要』第31号